



慈光

夏 号

- ①お知らせ
- ②お盆詣り
- ③行事の様子
- ④住職のコラム

花まつり

笑生十八番師匠 慈光寺寄席

◎お盆詣りのお知らせ

例年のとおり、八月一日からお盆詣りを始めます。お盆詣り該当のお檀家様は②頁をご覧ください。

◎土日の寺務室業務について

土・日曜日は寺務室を早めに閉める場合があります。日曜日は寺務室業務パソコンでの会計処理をお休みしております。土日でも日中の電話はつながりますが、日曜日の夕方は、つながりにくい時間帯があるかもしれません。恐れ入りますが、急用の方は、下記の住職の携帯電話にかけてください。なお、住職の携帯番号が変更になっております。従来より、個人携帯電話として利用している番号なので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、ご確認下さい。

◎住所変更など

宛先などが変更になりましたら、お知らせください。納骨仏壇をご利用の方には、所有者が変更になりましたら、速やかにご連絡をください。また納骨仏壇をご利用の方で、年間の寺院維持納骨堂管理費等が支払われていない方がいらっしゃいます。ごつつか早急にお支払いいただけますよう、お願い申し上げます。

② 納骨堂参拝時間

八月十三日(日)～十五日(火)

午前九時～午後七時 十五日は午後六時

期間中は供花 五百円(を)をご用意しております。

お供え物は、参拝後、お下がりとしてお持ち帰りいただけますようお願い申し上げます。

時間外のお詣り希望の方は、恐れ入りますが、お寺に**確認のお電話**をいただけます幸いです。

納骨仏壇はまだ**余裕がございます**。おきえの方は、この機会にお問い合わせください。

○盆云法要

八月十五日(火)午後四時より**虚空の間 納骨堂**

ご自身の納骨仏壇のお飾りをしてご一緒にお詣り下さい。特に**新盆**の方は、お詣りをお勧めしております。

○お盆詣り

例年のとおり、前半は八月一日～十二日まで。後半は十六日～二十日まで、地区ごとに分けてお盆詣りをいたします。例年の日程が予定しておりますが、引越などご住所が変更になった方は、お詣りの日程が変更になっている場合がありますので、よく**確認**ください。

葬儀法事が入った場合は、お詣り時間の遅滞があります。その時は、早めにご連絡をいたします。朝からお盆詣りに出ているので、ごとうかい理解とご協力をお願いします。

日程の変更ですが、できる限り**ご要望**に添いたいと思います。しかし、一人でお詣りをして頂くことから、承る事ができない場合、大変申し訳ございません。お寺で後ほど間違いなくお詣りをいたします。



○「花まつり」慈光寺寄席 慈光寺講演会の模様

慈光寺では、お寺で何かを学べる「寺子屋」を目指して、地道に活動しております。

去る五月七日（日）、春の恒例行事であります、お釈迦さまのお誕生日「花まつり」を開催しました。例年、ゲストの方からいろいろなパフォーマンスをしていただいておりますが、今年は、慈光寺では初めて寄席をいたしました。北海道を中心に活動しております、笑生十八番むよっせいおは

③



（師匠にご来院いただき、花まつ壇は？―法律かりの式典の後、参ら眺める祭祀承加の皆様は「落語継者」と題して、約一時間の講演をいただきました。お墓を聞いていただきや仏壇などは、相続財産に当たらないとか、必ずしもお墓を建てない場合、基本的には断ることができないなど、あらためて聞いてお話しに皆さんは大笑。約一時間の寄席は、あっといっ間でした。

また六月十日（土）、慈光寺ではこれも初めての講演会をいたした。弁護士の吉岡直樹先生にご来院いただき、お墓って誰のもの？遺骨は？位牌は？仏壇は？―法律か



これらの会は、お寺として何かしらを学べる場と考えており、継続をして開催しますので、是非、お気軽にお寺においでください。



④

前回から、「お経」について書き始めました。私たちが用いる根本経典を総称して「浄土三部経」といいます。『**仏説無量寿経**』二巻、『**仏説観無量寿経**』一卷、『**仏説阿弥陀経**』一卷をいい、どの経典も重要ですが、浄土真宗の開祖、親鸞聖人（一一七三—一二六三年）は、特に『**仏説無量寿経**』を真実の教えであると述べています。「浄土三部経」に共通する内容は、浄土の様子について書かれていて、そもそもインドの名前が「極楽の莊嚴のお経」という意味です。

さて『**仏説無量寿経**』上下二巻の内容ですが、舞台はインドのマガダ国に王舎城と呼ばれる場所があり、お釈迦様が多くのお弟子などに対して説法をするというストーリーです。説法の主人公として阿難（あなん）と呼ばれる弟子が登場します。

上巻のメインは四十八の願いが書かれているところです。四十八の願いを成就しないと、仏とは成らないと誓います。これを「四十八願文（しじゅうはちがんもん）」といい、私は満中陰四十九日法要の時に読むときがあります。四十八願文はとても大切な箇所です。あらためて後ほど書きましょう。

下巻では、極楽浄土に生まれたいと願うものは、必ず仏になるといわれており、阿弥陀仏の名前を聞き、信じたならば往生が定まるといいます。その後、弥勒菩薩が説法の対象者となり、極楽往生の世界の様々な事柄について述べていきます。弥勒菩薩の最後の仕事は、迷える多くの人々を極楽浄土へ導く役目があります。それが成就すると、弥勒菩薩も同じく浄土往生ができるといわれています。

四十八願文について補足をします。四十八願文の第十七願目と第十八願目はとても重要です。第十七願は、仏の名前を称えて讃えなければならぬと誓います。第十八願は、すべての衆生が一心に信じて仏の名前を称え続けられれば、必ず極楽往生をするといえます。十七・十八願は重要な箇所です、『**仏説無量寿経**』の中心的な部分と言われます。古来より念仏を称えたら浄土往生できるといわれる根拠の箇所になっているからです。

極楽浄土は存在するのか、阿弥陀仏は人なのかと聞かれることがあります。お経に書かれている浄土について触れる中で、次回以降書いていきます。

最近、肩がこりやすくなりました。勉強をしているから？いえいえ、パソコンやスマホの画面を見てからでしょうね。これからお盆詣りが始まります。中々、身体を休める時間が取れないのですが、がんばって乗り切りたいと思います。お盆が終わったら、少しお休みを下さい。合掌